

ÄKTAexplore 10S/100 圧力チェックシート

Check1

システムに原因があるか、カラムに原因があるかを調べます

オーバプレッシャーエラーが出る
圧力が高い

Act1

システムを Pauseし、
ColumnPositionをPosition1Bypassへ変更

(操作)

Manual ↓ Flowpath ↓ ColumnPosition ↓ Position1Bypass ⇒ Execute
⇒ Continue

オーバプレッシャーエラーが出る
圧力が高い

No

カラム洗浄

Yes (システム内に目詰まりがある)

Act2

システムをMilli-Q水に置換して Check 2 へ

(操作)

1、Manual ↓ Pump ↓ PumpWashExplorer ↓ A11,B1選択 ⇒ Execute

2、Manual ↓ Pump ↓ SystemWash ⇒ Execute

Check2

プレッシャーセンサーで圧力を正しく計測できているかを調べます

Act1 (システム内Milli-Q水の状態で)

Aポンプのパージバルブ2箇所を手前方向に2回転し、完全に開放する

※この時重力落下により、バッファーボトル内のMilli-Q水が各パージバルブから滴下してきます。紙タオル等を下に敷いてからパージバルブを開いてください。

※パージバルブからMilli-Qの滴下が見られない場合、ポンプ内に気泡がかんでいる可能性があります。

簡易マニュアル3.3項 ポンプのパージの手順に従いエア抜き作業をしてください

圧力表示 0.00MPa (または0.05MPa)

No (それ以上)
センサーのゼロ値が
プラス側にずれています

YES

(正常ですが、
センサーのゼロ値がマイナス側にずれている
可能性もあります)
パージバルブを閉めて先に**Check3のAct1**で
0.15 MPa以下だった場合、この続きを行います

Act2

センサーのゼロ設定 (キャリブレーション) を行います

(操作)

パージバルブ2箇所を開放したまま、**SystemControl**画面より

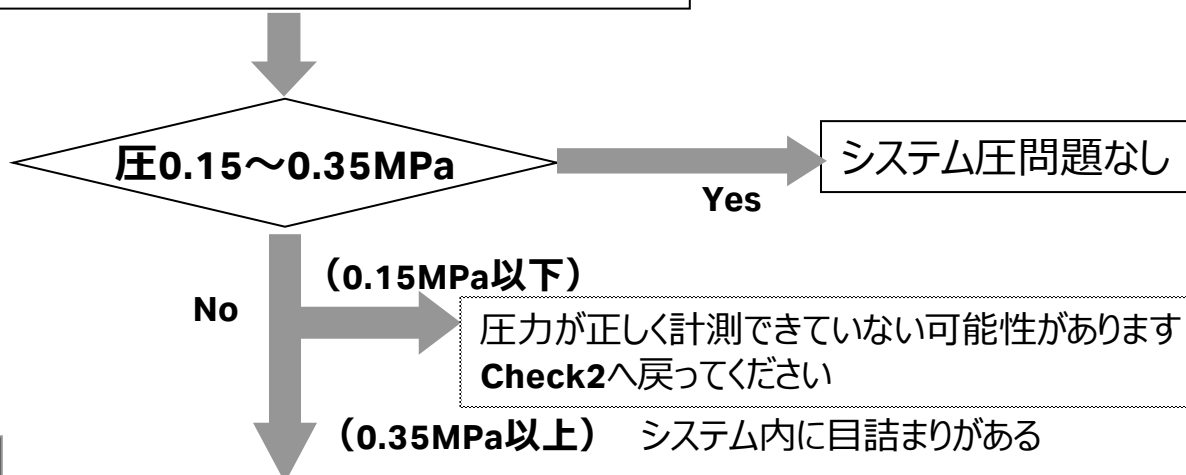
Systems ↓ **Calibrate** ↓ **P-900 Pressure** を選択し、**Calibrate**ボタンをクリック

Check3

システム内のどこに原因があるか調べます (FR-902が取り付けられている前提の内容です)

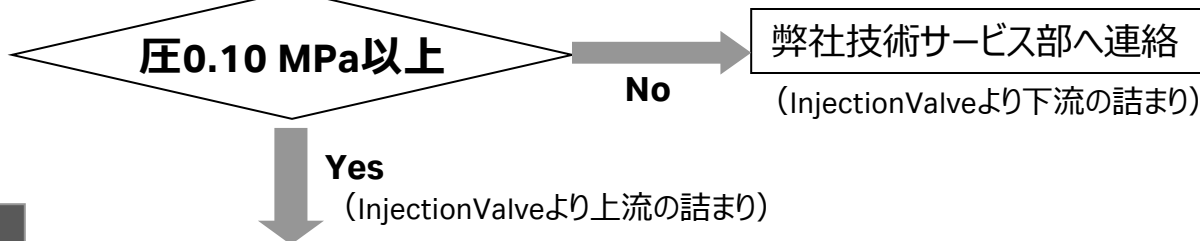
Act1

システム内Milli-Q水
ColumnPosition ; Position1 Bypass
Gradient ; ConcB% 0%
Flow 1 ml/min
⇒ Execute



Act2

Gradient ; Conc%B 0%
InjectionValve ↓ Waste ⇒ Execute



Act3

オンラインフィルター洗浄

AKTAexplorer 10Sの場合 : https://www.cytivalifesciences.co.jp/tech_support/akta/filter_10.html

AKTAexplorer100の場合 : https://www.cytivalifesciences.co.jp/tech_support/akta/filter_100_fplc.html

オンラインフィルター洗浄後、再度Check3のAct1を行う